



地元産の野菜はいかがですか？

殖生地区

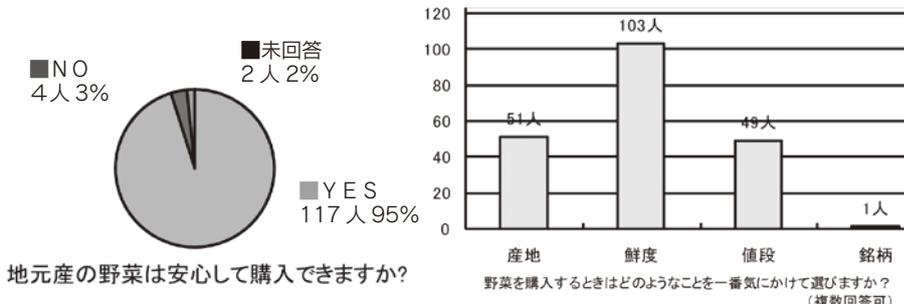


殖生地区にある道の駅「しらとりの郷・羽曳野」は毎週末になると多くの人で賑わいます。特に、地元産の野菜や花などが直売されている「あすかてくるで」(JA大阪南農産物直売所)は人気があり、厳格なチェック(残留農薬検査等)を通過した安全性の高い、採れたて新鮮な野菜は、消費者からも大好評です。実際、私たちが道の駅へ野菜を買いに来ら

れた123人の方々にアンケートをお願いしたところ、「地元産の野菜は安心して購入できるか?」という質問に対して、実に95%の方が「安心できる。」と回答されました。また、野菜を買う際には「鮮度」を重視するという意見も多くみられました。



店内は大勢の人でいっぱい



では、実際に野菜を作り道の駅に出荷されている農家の方は、消費者により良い野菜を提供するために一体どのような工夫をされているのでしょうか?そこで私たちは、羽曳野で野菜を作り、道の駅へ出荷されている農家の方をお願いして、野菜作りの様子取材させていただきました。

………今回、取材に応じてくださった農家では………

- ★薬を使用せず畑を焼くことで殺虫し、より無農薬に近い状態で野菜を作っている。
- ★多くの品目を提供できるよう、畑の棟を効率よく回転させ、季節ごとに多種の野菜を栽培している。
- ★パッケージに生産者の名前シールをつけ、消費者との信頼関係及び結びつきを強めている。
- ★販売する際に、レシピをつけて野菜料理を紹介している。



棟ごとにいろいろな野菜が栽培されています。



野菜料理のレシピ。おいしそう!

このようにさまざまな工夫を凝らし消費者のニーズに応え、安心安全で美味しい野菜作りに励まれています。

市内外を問わず多くの方々が道の駅を訪れ野菜を求めるのは、地元農家の方の努力や創意工夫があつてこそだと私たちは実感しました。

現在、世の中では食の安全性が問題となり、アンケートでも「外国産は不安。」や「生産者の名前がでていると安心。」等の意見があり、消費者の食に対する意識は高まっていま

す。そんな中、生産者の顔が見える地元産の農産物が注目を集めています。今後、地産地消を進めていくうえでも、生産者と消費者の距離が縮まる直売所の役割は大きく、また、地元農家への期待もさらに高まっていくのではないのでしょうか。

取材にご協力いただきました農家の方、ならびに「あすかてくるで」(JA大阪南農産物直売所)の皆様へ厚くお礼申し上げます。

【平成21年3月1日住民基本台帳システムが変更になります】

平成21年3月1日より、羽曳野市の住民基本台帳システムが新しくなります。

それに伴う大きな変更点は以下の通りです。

- ①住民票が改製されます。
従前の改製前住民票(更新される前の住民票)については、以後保存期間は、5年間です。それ以後は交付できません。
- ②印鑑登録のシステムが新しくなり、印鑑登録証明書用紙のサイズがA5からA4に変わります。なお、印鑑登録証および住民基本台帳カードについては変更ありませんので、現在お持ちのカードをそのままお使いいただけます。
- ③外国人登録原票記載事項証明書の用紙のサイズが、A5からA4に変わります。

【自動交付機の入替えについて(お知らせ)】

①自動交付機の新機種導入にともない、機器入替作業のため、市内のすべての自動交付機を一定期間休止します。

休止期間 平成21年3月1日(日)から
平成21年3月15日(日)まで

市民の皆様には、大変ご迷惑をおかけいたしますが、ご理解とご協力をよろしくお願いいたします。ご不明な点は、市民課または支所までお問い合わせください。

市民課：内線 1650 支所：内線 5100